

資料 研究結果と考察

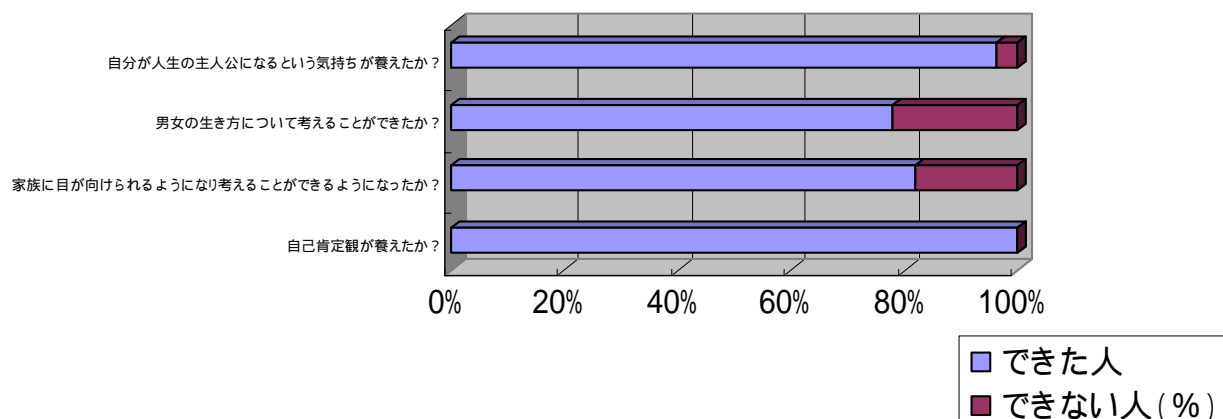
各プログラムの成果と課題を明らかにし、主体的に人生を考えることができたかを、エンカウンター、ロールプレイの演習結果で検証し、ライフコースの設計にいかされているかを4人の抽出生徒の変容を交えて、総合的に考察する。

- 1 構成的グループエンカウンターは、いろいろな人の意見を交換し、体験することにより、主体的に人生を考えるために有効だったか。
- 2 ロールプレイは、役割を演じることを通して、親（異世代）の立場や考え方、様々な家庭のポリシーなど、家族や家庭生活について新たな気づきを見つけるために有効だったか。
- 3 ライフコースの設計の学習では、エンカウンターやロールプレイの演習が生かされ、影響しあうことにより、より具体的で着実な人生設計を考えることができるようになったか。

（1）構成的グループエンカウンターの授業実践後の生徒の変容結果と考察

構成的グループエンカウンターにより、人と意見を交換したか、シェアリングにより自己表現できたかを実習後のワークシートによって検証した。

表1 授業実践後の生徒の変化



上の表より、自己肯定観を養うことができ、家族にも目を向けることができ、男女の生き方について考え、自分が人生の主人公になると意識がもてた生徒が多かったことがわかる。以上のことから構成的グループエンカウンターは、いろいろな人の意見を交換し、主体的に人生を考えるために有効だったといえる。

（2）ロールプレイの授業実践後の生徒の変容結果と考察

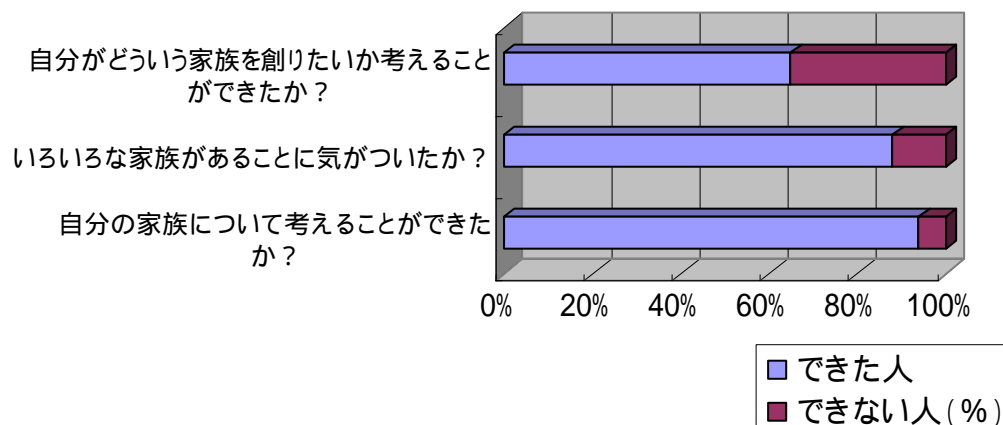
ロールプレイにより、更に深く心の機微や他の人の考えを学び、自らが家族や自分自身と向き合い自分にとっての家族の意味を模索し、自分で創り、変えていこうとしたかを実習後のワークシートによって検証した。下の表より、9割の生徒が自分の家族をみつめ、8割がいろいろな家族がいることに気づき、6割が自分がどういう家族を創りたいか考えることができたことがわかる。

生徒の感想に「リストラという設定で私は子どもの役をして、本当にお父さんがリストラになったら、いやだと思いました。家庭は明るいのが一番。お父さんも大変だなあとあらためて思いました」

とある。これから、自分以外の家族について考え、今社会的に問題になっているリストラや失業についても生徒なりに考えていることがわかる。「いろいろな家族の風景があってどんな家族が一番理想的だとかを改めて考えさせられたような気がした。」というように、自分の将来の創世家族に対しても考えることができた。

以上のことからロールプレイは親（異世代）の立場や考え方、様々な家庭のポリシーなど、家族や家庭生活について新たな気づきを見つけるために有効だったといえる。

表2 授業実践後の生徒の感想の分析



(3) 抽出児の変容の結果と考察

ア 家族・家庭生活の授業で自分の意見が言えない内気なA

『いいところさがし』の授業でいいところメッセージカードを友達からもらい「自分で思っているようなイメージとは違った印象が書いてあって驚いた」という感想を持った。構成的グループエンカウンターを行わないでプリントのみの学習にしたら、Aは、自分の意見を決して出すことはなかったであろう。構成的グループエンカウンターでは、全員が自分の意見を出し、話し合い、まとめていかなければいけない。Aは、グループで話し合いを持ちながら考えることで、『親友からの相談』で「人によってどういう考えを持っているかが違っていた」と書いている。このことより、自己受容をしたとともに、いろいろな考え方があることに気がついたといえる。『人生の羅針盤』では、「自分はとても気楽に生きるのが好きらしい。かなりの怠け者みたいだ。人生の羅針盤はまだ見えない」と最後の感想に書いてあり、自己を分析的にみることができている。また、「友達の意外なところが見えた」とあり、ここでも、他者と自分は違うということを認識することができていた。『六人の人生』の授業では、友達との意見交換から、「家庭を大事に、というのがとても大切なのもかもしれない」とあり、授業の最後には「家族は大事にすべきだと思った」とあることから、家族に目を向けることができるようになったことがわかる。『卵を育てる』という授業では、「卵が割れないように気遣うのが難しかった。結局生まれなかった」という感想が書かれている。子どもを育てることの擬似体験として、市販の卵を育てたが、卵に名前をつけて大事に育てようという意識が見られた感想だった。『ライフコースを作ろう』で「妻が働きたいと思ったら働かせるだろう」とあり、初めての家族の妻に対してその人格を尊重しようという意識が見られた。

イ ライフステージの授業に消極的な態度を示すB

構成的グループエンカウンター最初のウォーミングアップも乗ることができず、体を動かすことができなくて、下をみているBは、最初の『私の長期生活設計』では大学、就職、昇進、昇進、60歳で退職、老後を楽しむ、死去で簡単に終わっている。『いいところさがし』では、「晴れた気持ちになった。気分爽快。」とあり、今の自分を受け入れることができたようだ。『あなたはどんな恋愛がしたいのか?』で理想の相手像は?で、「今現在、31~33の間の人。お金持っている人。身長174cmの人。B型の人。出身地が九州の人。」『人生の羅針盤』のワークシートの中で、「博多に行きたい。大分に行きたい。住みたい。人生やり直したい。お金を貯めたい。」とある。『どんな暮らしがしたい?』という授業では、ライフコースを「大学、就職、結婚しない、仕事を続ける、定年、再就職、老後の生活」とし、パートナーに望む条件は、「経済力、性格のところが高収入と記入。家庭を大事にする、学歴」とある。子どもの養育は、主に自分で、家事は自分がすべてするとあり、家計の管理は、自分が管理と書いてある。そして将来の私からは、15年後には私はこうなっていきたいで、家族はばらばら?仕事はすごく忙しいと書いてある。『いいところさがし』で家族のいいところを探ることができなかったBは、自分を肯定的に受け入れる反面、家族をつくるということに自信を失っているように感じられる。『六人の人生』でキャリアウーマンのまりこさんの生き方を一番に選び、「自分のやりたい仕事をばりばりやっていますすごいと思うらやましい。世界を回って仕事をするなんてあこがれる」とあることから、また自分が一番輝くのは仕事であり、もし家族をもったとしても全て自分で行おうとしている。「人生をやり直したい」という本人の言葉が痛々しかった。お金がほしい、自分よりかなり年齢の高い人に守られたいという気持ち、そして、本音の部分は、家庭を大切にすると結婚したいと思っている。『六人の人生』の授業の最後の感想で、「人生は人それぞれ、やりたいように生きれば、自分が後悔ないように生きればよい」と書いてあることから、自分の人生を見つめ始めた。『卵を育てる』の感想は、「卵を育てたのははじめてだった。とても不思議な感じがした。割れたら大変だと思った。その後は家の冷蔵庫に保管。とても気になった。そして賞味期限は過ぎた」とある。今までBは積極的に授業に入ってこれなかった。この感想から、かなり自分から授業に参加していることが伺える。そして自己受容できたことがわかる。『ライフコースをつくろう』では、「高校生のうちに自分が将来どのような道を進むべきなのか考えると決めた。そして見つかった。今はその夢に向かって努力しなきゃいけない。中学までは勉強が大嫌いで、ただのほほ~んと毎日を過ごしてきたけど、これからは勉強がんばらなくてはと思った。今のところ、大学か短大のどちらかに行きたいと思っている。だから今の自分のやるべきことを精一杯して、親に迷惑をかけないようにしている。大学か短大をきちんと卒業して、就職してからはよく決めていないけど、結婚はしたくない。一生仕事をバリバリしていく強い人になりたい。主婦とかは絶対いや。自分の生活していくお金はきちんと稼ぎたい。そのために今毎日を充実して過ごしていきたい。悔いの残らない自分の納得いく人生を送るために」とある。自分の道を見つけ、自分の家族のことは考えられるようになった。しかしまだまだ自分を受け入れてもらえる、ありのままの自分でいいという、他者に自己開示する余裕がみられない。今後も構成的グループエンカウンターを取り入れ、クラスの人との交流の中で培えば変わっていくような気がした。

ウ 家族・家庭生活の授業でいつもふざけ気味なC

『いいところさがし』の感想で、「驚きました。とても心が温まりました」と書いてあり、家族のいいところも「母には、うんでくれてありがとう。父にはありがとう。姉さんには、いつもありがとう」と書かれている。『親友からの相談』では、「墮ろしちゃえ」という言葉が先にあり、構成的グループエンカウンター後には、「二人の気持ちが大事だと思う」と変容していることがわかる。『あなたは、

『どんな恋愛がしたいのか?』で、理想の相手像は、「まじめな人」で、「お互いの理想にあったまじめな恋愛がしたい」と書いている。高校生の付き合い方は、「お互いを大事にする」と書いてある。普段のCの行動から予想できない言葉であった。『どんな暮らしがしたいか?』の授業では、将来の私で今から10年後には私はこうなっていたいというところで、「家族はバラバラ、仕事は普通、資格は車、趣味は草野球」とあり、人生の中で特に大切にしたいことは、「人とのつながり」とある。家族が大事であるということは、わかっていながらも自分で家族を作ることに不安を感じているのがわかる。『人生の羅針盤』の授業では、家族が好き、友達が好き、老人介護がしてみたい、原点に戻りたいなど書いている。この授業の振り返り(シェアリング)では、「自分の未来が楽しみになりました」と書いている。自己肯定観が養われ、前向きに生きようという姿勢がうかがえる。『六人の人生』の授業では、「子どもの成長を楽しみにしているところがいいと思う。やっぱり家族愛は大切だと思う。あと自分は一人の人生でなく、ちゃんと責任をもった方がよい」とあり、友達との意見交換後も、「やっぱり一人で生きていくのは楽しくないのかもしれない」と書いてあることから、家族の大切さをしみじみ感じ、責任をもって人生を歩みたいという意識も感じられる。

エ 家庭科の授業でいつもまじめに取り組んでいるD

『いいところさがし』では、「1個以外、自分が思っていたことではなかったからびっくりした。」とある。最後の授業の『ライフコースを作ろう』の中で、Dは、一番はじめに「今までの私は、とても自分勝手にわがままで周囲の人々など気にせず、人に対する優しさも全くなく、自分のことだけを一番に考えて優先したりして……」延々自分のマイナス面をあげている。そのあと「今の自分は、プラス思考になった。……家庭科の授業をしてみて、相手の長所を探すようにするのは大切だなと思った。その子の長所を見つけられると、それを見習って自分もそんな風になりたくなくて自分も変わる。いろんな人のいろんな良いところを見習っていけばいいなと思う。」と書いてあり、自己肯定観を養うことができ、また他者理解、他者受容もできるようになったことがうかがえる。また、「私は今まであまりにも周囲のことに興味をもっていなかったから家族の仲が悪くなっていたのにも気づかなかった。おばあちゃんとママは仲が悪いし、パパ・ママも仲が悪い、お姉ちゃんと私も仲が悪く、ママとお姉ちゃんも仲が悪い。ずっとなかよしの夫婦なんだろうと思っていたし、みんな仲良しの家族なんだって思っていた。でも実際には逆に違ってママがずっと苦しめられてたんだとわかってきた。今の私にできることは、ママの支えになったり、ママを笑わせることだ。今の私なら、心に余裕があるからママの役にたてそうな気がする。」とあり、気づきがみられる。そして、最初は、子どもができたら一時やめるといっていたDは「子どもができて仕事も続けたい」と書いてあることから、Dの意識の変化がうかがえる。